

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【白幡中学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策	
知識・技能	本校だけでなく、発達段階や理解するのが難しい概念的な理解を含む授業内容に関しては、全国学力・学習状況調査やさいたま市学習状況調査などの合計の平均点が全国・市平均を超えていることに感嘆されず、視覚的や体験的な活動を通して、工夫して理解できるように授業の工夫をすることが大切であると考え。また、統計的に生徒が理解するのに困難を抱える分野や単元については、放課後の補修や授業内で重点的にフォローアップするなどの仕組みを構築し、学び直す場を設定していくことが重要だと考える。	
思考・判断・表現	知識そのものを習得する以上に、習得した知識や技能を活用することを通して、思考力・判断力・表現力を育てる授業の工夫が必要である。各教科の見方・考え方を働かせる問いを設定し、考える必要がある学習課題を設定することも同時に必要である。また、資料等を読み取り、そこから自分の意見や考えを記述する、表現するためには、授業内に考える時間を確保しなければならない。そのためには、内容を精選し、カリキュラム・マネジメントをすることが重要だと考えている。	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題>基礎学力は全国平均・市平均よりも高いが、学んだ意識を実生活に生かすまでに至っていない。 <指導上の課題>各教科で学ぶ内容が実生活にどう活かせるか、応用できるかといった問い(発問)が授業設計されていることが少ない。	⇒ 各教科の単元の始まりに本単元を学ぶ意味や価値、実生活にどう生かすことができるかなどをきちんと生徒が考える問いと時間を確保する。
思考・判断・表現	<学習上の課題>物事を批判的に考えることが弱い、もしくは発想がない、自分の考えを主張する、発信することに課題がある。 <指導上の課題>生徒が深く思考するために十分な時間の確保が必要だが、学習内容が多く、じっくりと考える時間が確保しづらくなっている。	⇒ 学習内容について多面的・多角的に捉えるために、各教科の見方・考え方が働く問いの工夫を行う。単元の中に適切な量と順序で生徒が思考できる時間を確保するためにカリキュラム・マネジメントを行う。

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	B	① 教科によって、講義形式で、授業や教科書で解説や触れただけで、生徒自身に伝わっていない、理解できていないまま、授業が進んでしまっている状況がある。校内研修や教科会を月1で設けて、指導法や指導内容の検討、授業改善をしていく機会を設けたが、さらに意味のある校内研修や教科会を設定していく必要がある。
思考・判断・表現	B	この資質・能力を育てるためには、問いの研究が不可欠である。教科を超えて、本質的な問いとは何か？を議論する場をもっと設定していく必要がある。カリキュラム・マネジメントの仕方や考え方、価値についてさらに理解度を高める研修会等を行い、学校全体で授業改善を進めていく姿勢や仕組みが必要であると考え。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	数学の「数と式」の基本的な計算問題については、正答率が平均よりも20pt以上高く、無回答率も平均より10pt以上低い。どの領域でも平均点よりも5~10pt高く、基本的・基礎的な数学の知識は身に付いている。国語の「(2)情報の扱い方に関する事項」の情報と情報との関係についての理解は、唯一平均より0.8pt低い。情報と情報、異なる知識同士を結びつけて考えることに課題が見られる。	
思考・判断・表現	国語の「話すこと・聞くこと」の資料の中から適切な部分を選択する問題は、短答式であるものの全国平均・県平均よりも15pt以上高い。加えて、無回答率も2.4ptと全国平均・平均よりも1pt以上低い。資料から端的に読み取る力はとても高い。一方で、「読むこと」の目的に応じて必要な情報に着目して要約する問題は、正答率は平均よりも10pt高いものの、無回答率は平均よりも5ptほど高い。要約できる生徒が二極化しているのに加えて、難しい問題に対して回答を諦めてしまう傾向が高い。	

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	1,2年ともに4教科すべて市平均を上回っていることから、基礎的な知識や技能はある程度身に付いている。しかし、項目別に細かく分析していくと1年生の国語においては、「話すこと・書くこと」は市平均を下回り、数学の「図形」も下回っている。1・2年生ともに理解の「地球を柱とする領域」が市平均を下回っている。このことから、「図形」「地球」など概念的な知識については困難を抱えている。	
思考・判断・表現	国語の「書くこと・話すこと」、数学の「関数などのグラフから読み取る」などは苦手を感じており、無回答率も市平均よりも多くなっている。理科の「地球」に関することについては、化石などの実生活の中にはないものであり、判別が難しいものに関しては、1,2年ともに困難を感じている。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	教科によっては、単元の意味や価値を説明して授業を展開している。実生活にどう生かせるかについては、まだまだ改善の余地が多いにある。	変更なし
思考・判断・表現	B	生徒の実態に応じて、学習内容に関するカリキュラム・マネジメントを行っている教科もある。しかし、各教科の見方・考え方が働く問いの工夫にはまだまだ改善の余地が多いにある。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)